

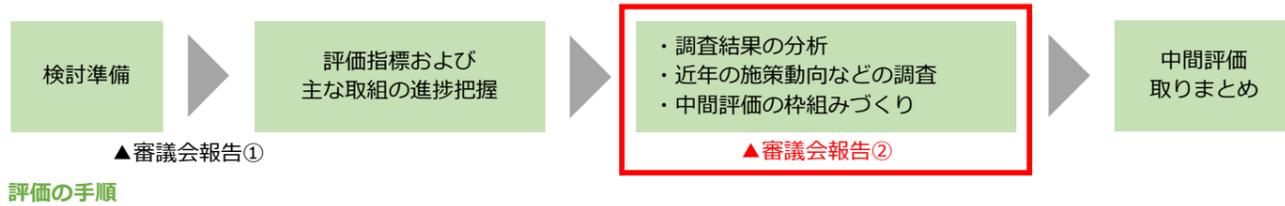
■札幌市緑の審議会について

前回の札幌市緑の審議会（第95回）は、令和6年5月14日に開催し、『第4次札幌市みどりの基本計画』の中間評価を進めていくことの説明を行いました。

今回の審議会では、目標および施策に関する進捗結果を提示し、中間評価の取りまとめの方向性を精査いただくこととしています。中間評価報告書は、令和7年3月の取りまとめを予定しています。

取組スケジュール（予定）

2024年5月14日	緑の審議会報告①（1回目 中間評価実施の報告）
夏頃	評価指標の調査、分析
2024年11月21日	緑の審議会報告②（2回目 取りまとめの方向性の提示）
2025年3月	中間評価の取りまとめ



■札幌市みどりの基本計画の概要

◆計画の内容

みどりの基本計画は、森林や公園緑地・花壇など、私たちが生活していくうえで欠かすことのできない様々な「みどり」について、市民、事業者、行政が、一緒になってみどりの保全や創出を推進するため、その将来像、目標、施策などを定めた計画です。令和2年3月策定。

◆中間評価の目的 みどりの基本計画（P119）

中間評価は、目標および施策の方向性に関する現時点での達成状況を評価し、社会情勢の変化や関係法令の改正などに柔軟に対応するため、必要に応じて見直し・充実を検討することを目的に実施します。

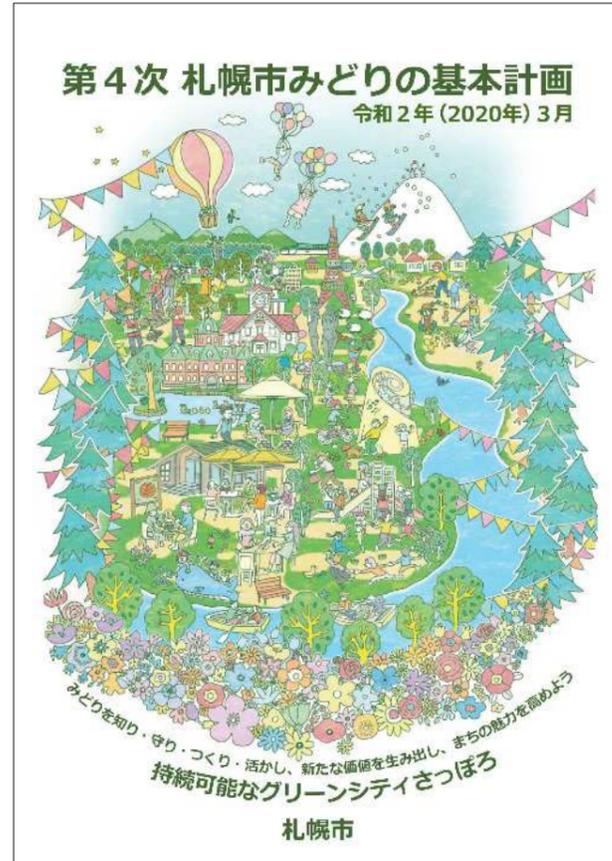
本計画は、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act）のPDCAサイクルによる進行管理への評価を計画期間の中間年（令和6年）に実施し、目標の妥当性や進捗への改善を図ることとしています。

◆計画の体系と評価方法 みどりの基本計画（P72）

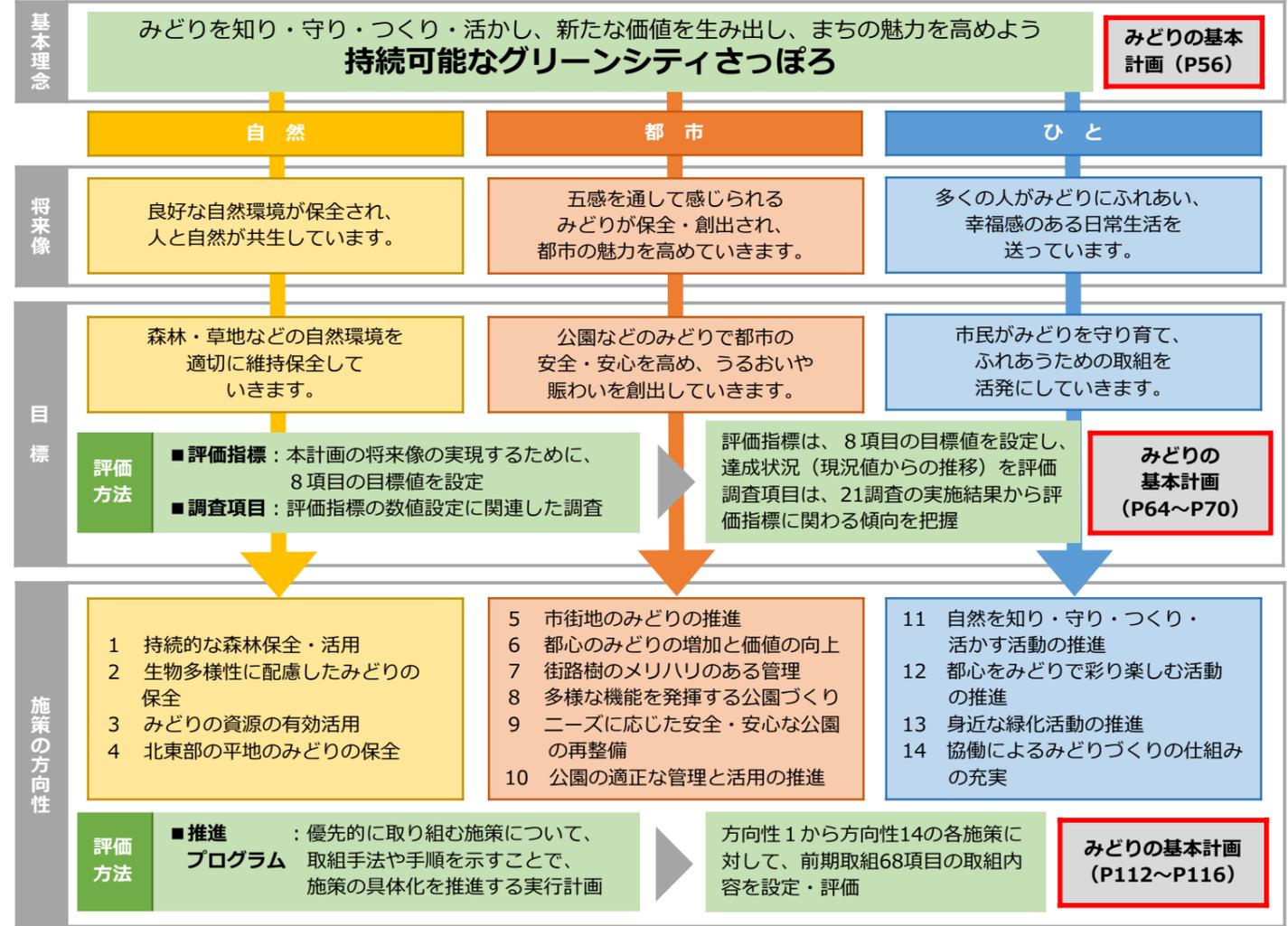
第4次札幌市みどりの基本計画では、みどりの分野の取組を進める上で「重視すべき4つの視点」と、それらを踏まえた「基本理念」のもと、「自然」「都市」「ひと」ごとに、「みどりの将来像」「目標」および14の「施策の方向性」を掲げています。

「目標」は、評価指標と調査項目を設定し、2つの結果から達成状況を把握します。達成状況は、計画策定時の数値（現況値）と中間評価策定時の数値（中間値）を比較し、本計画で設定している目標値にどの程度到達できているのかを可視化します。

「施策の方向性」は、施策の具体化を推進する実行計画である推進プログラムについて、札幌市の自己評価により定期点検を行います。



第4次札幌市みどりの基本計画



みどりの基本計画の体系（目標、施策の方向性の評価方法と取りまとめのイメージ）

■中間評価の結果

評価指標は、「目標値を達成」が3件（37.5%）「目標値に向けて上昇中」が3件（37.5%）となり、全体の75.0%を占める項目が、計画どおりに進捗していると評価できます。

調査項目は、全部で21項目（重複した項目も含む）あり、「上昇傾向」が10件（47.6%）「現況値から変化なし」が3件（14.3%）「減少傾向」が6件（28.6%）となりました。

推進プログラムは、前期に取り組む68項目のうち約9割の項目が、計画どおりに進捗していると評価できます。

評価指標の評価（本資料P2）

評価	◎目標値を達成	○目標値に向けて上昇中	△現況値から減少
件数・割合	3件 37.5%	3件 37.5%	2件 25.0%

調査項目の傾向（本資料P3）

傾向	A上昇傾向	B現況値から変化なし	C減少傾向	-評価対象外
件数・割合	10件 47.6%	3件 14.3%	6件 28.6%	2件 9.5%

推進プログラムの評価（本資料P4～P10）

評価	○工程・取組内容ともに計画どおり進行している	△工程または取組内容に遅れが生じている
件数・割合	61件 89.7%	7件 10.3%

■評価指標の達成状況（みどりの基本計画P64～P70）

評価指標において現況値から減少となったのは、全8項目のうち、「みどりの量（自然）」と「コミュニティ活動に関する公園利用届等件数（ひと）」の2項目になります。減少となった2項目については、理由や要因を把握するための分析を行っています。

※評価 ◎目標値に到達(3件 37.5%) ○目標値に向けて上昇中(3件 37.5%) △現況値から減少(2件 25.0%)

分類	目標	評価指標	現況値	中間値	目標値	評価※	考察	
自然	森林・草地などの自然環境を適切に保全していきます。	みどりの量	33,627ha (R1)	33,472ha (R5)	現況値以上	現況値から減少	△	<ul style="list-style-type: none"> 指標は、都市計画区域の緑被現況を航空写真より把握した面積になります。 目標値は、今あるみどりの魅力向上に重点をおき、現況値以上と設定しています。 中間値は、土地利用開発が進んでいるため、現況値から減少しています。
		間伐などにより適切な手入れをした都市環境林の面積（人口林対象面積約890ha）	97ha (H30)	274ha (R5)	400ha	目標値に向けて上昇中	○	<ul style="list-style-type: none"> 指標は、間伐など森林整備面積の集計値になります。 目標値は、都市環境林人工林（約890ha）のうち、約半数の400haを設定しています。 中間値は、5年間で177ha増加しており、現状のペースで間伐など森林整備を進めることで、目標値に到達できる見込みです。
都市	公園などのみどりで都市の安全・安心を高め、うるおいや賑わいを創出していきます。	都心部の公共施設や民間施設の緑化が足りていると感じている市民の割合（公共施設）	38% (H30)	56% (R5)	45%	目標値に到達	◎	<ul style="list-style-type: none"> 指標は、市民アンケート調査の設問に対して、該当する選択肢に回答した割合になります。 目標値は、現況値から約2割上昇した数値を設定しています。 中間値は、公共施設・民間施設ともに目標値に到達していますが、R11年に向けて引き続き数値が維持・上昇するよう取組を進める必要があります。
		都心部の公共施設や民間施設の緑化が足りていると感じている市民の割合（民間施設）	32% (H30)	41% (R5)	40%	目標値に到達	◎	
		公園のバリアフリー化率 トイレ	37% (H30)	41% (R5)	50%	目標値に向けて上昇中	○	<ul style="list-style-type: none"> トイレの指標は、公園トイレ全棟数のうち、バリアフリー化されたトイレの棟数の割合になります。 中間値は、主要公園は76%と目標値に到達できる状況ですが、全公園は4%の上昇（目標7%前後）にとどまっております。取組を一層推進していく必要があります。
		公園のバリアフリー化率のうち、主要公園トイレ	64% (H30)	76% (R5)	85%	目標値に向けて上昇中	○	
ひと	市民がみどりを守り育て、ふれあうための取組を活発にしています。	みどりづくりなどに参加した市民の割合	56.1% (H30)	56.4% (R5)	現況値以上	目標値に到達	◎	<ul style="list-style-type: none"> 指標は、市民アンケート調査の「この1年間に、市内の公園などでのみどりづくりやイベントに参加したことがありますか」の設問で回答した割合になります。 目標値は、少子高齢化や近年の余暇の過ごし方の多様化等から、現況値以上としています。 中間値は、現況値の56.1%を上回る数値（56.4%）となっており、目標値に到達していますが、R11年に向けて引き続き、みどりづくりの普及啓発を推進する必要があります。
		コミュニティ活動に関する公園利用届等件数	1,967件 (H29)	1,637件 (R5)	現況値以上	現況値から減少	△	

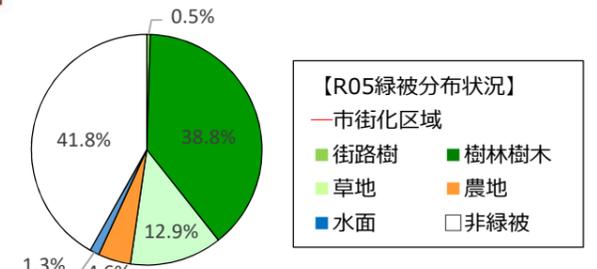
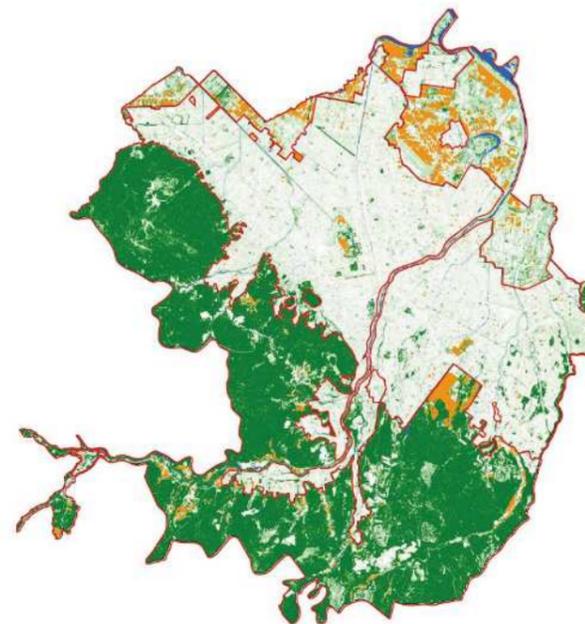
◆「△現況値から減少」に関する指標の分析

緑被率調査

みどりの量については、前回調査時（R1）よりも154ha減少となっています。減少の内訳としては、都市計画区域のうち市街化区域のみどりの量が約140ha減少していることがわかり、主に郊外部での宅地開発、農地や草地の商業施設化が見られました。

緑被の状況（札幌市緑被現況等調査）

項目	市街化区域	市街化調整区域	都市計画区域
R01 [現況値]	5,395 (21.6%)	28,232 (86.8%)	33,627 (58.4%)
R05 [中間値]	5,257 (21.0%)	28,215 (86.8%)	33,472 (58.2%)
R05-R01	-137 (-0.6%)	-17 (0.0%)	-154 (-0.3%)



公園利用届分類調査

公園利用届等の活動は、「運動会・遠足」、「少年野球・サッカー」、「その他のスポーツ・大会」、「冬遊び」、「自然散策・自然観察」、「野外学習・園外保育」の6分類をレクリエーション活動、「地域イベント・祭り」、「住民活動等」、「防災訓練等」、「ボランティア活動」、「その他」の5分類をコミュニティ活動としています。

計画期間中の5年間では、新型コロナウイルス感染症が流行し、外出規制や行動制限により社会的活動が停滞したため、中間評価の数値に大きく影響しています。

公園利用届による利用件数とコロナの感染者数との関連を経年で比較・整理すると、平成29年度の利用件数（レクリエーション活動とコミュニティ活動の総計）は10,173件（うちコミュニティ活動1,967件）となります。令和2年度は1,953件と平成29年度の届出数と比較すると2割程度まで減少しましたが、令和5年度は6,428件（うちコミュニティ活動1,637件）と6割程度まで回復しています。中間評価では減少となりましたが、回復基調であることを鑑み、計画後期では目標値の達成に向けて取組を推進していくことが求められます。



令和元年度から令和5年度における公園利用届等の件数とコロナ感染者累計数の変遷 ※コロナ感染者累計数は「DATA-SMART CITY SAPPORO」の公開データ（2023年5月8日まで更新）を基に作成

■ 調査項目の傾向（みどりの基本計画P64～P70）

調査項目において減少傾向となったのは、全21項目のうち、「みどりの量（自然）」「防災訓練の回数（都市）」「森林ボランティア（ひと）」「タウンガーデナー（ひと）」「指定管理による公園ボランティア（ひと）」「コミュニティ活動に関する届出件数（ひと）」の6項目になります。

※傾向 A上昇傾向（10件 47.6%） B現況値から変化なし（3件 14.3%） C減少傾向（6件 28.6%） — 対象外（2件 9.5%）

分類	目標	評価項目	現況値	中間値	傾向※	考察			
自然	森林・草地などの自然環境を適切に保全していきます	緑被現況調査	みどりの量	33,627ha (R1)	33,472ha (R5)	減少傾向	C	【再掲】評価指標欄に記載	
		都市環境林整備状況調査	間伐などにより適切な手入れをした都市環境林の面積	97ha(H30)	274ha(R5)	上昇傾向	A	【再掲】評価指標欄に記載	
		市内の動植物の分布調査	得られたデータ件数	1,897件 (R1)	17,166件 (R5)	上昇傾向	A	・この調査では、札幌の自然環境の状況を把握することを目的に、森林や草地、水辺などの環境の指標となる生き物を市民と調べています。 ・H27年から毎年作成している生き物マップは、自然環境の現状や変化を知る貴重な資料となっており、引き続き調査手法の見直しを検討した上で調査を継続していきます。	
都市	公園などのみどりで都市の安全・安心を高め、つるおいや賑わいを創出していきます	市民アンケート調査	都心部の公共施設、民間施設の緑化が足りていると感じている市民の割合の上昇率	公共	38% (H30)	56% (R5)	上昇傾向 (上昇率37.5%)	A	・都心部の公共施設、民間施設の緑化が足りていると感じている市民の割合の上昇率を掲載しています。当初は約2割の上昇を目標としていましたが、H30年から比較すると公共施設は47%、民間施設は28%上昇しており、2つの上昇率を平均した数値は37.5%となっており、当初設定した約2割の目標を上回っています。
				民間	32% (H30)	41% (R5)			
		公園バリアフリー化実施状況調査	園路広場	79% (H30)	80% (R5)	上昇傾向	A	・園路広場と駐車場の調査は、1公園あたり1箇所以上バリアフリー対応となっている公園数の割合を把握しています。中間値は、園路広場は1%、駐車場は9%上昇しています。	
			駐車場	57% (H30)	66% (R5)	上昇傾向	A		
		民間活力の導入状況調査		0件 (R1)	0件 (R5)	現況値から変化なし	B	・市内の公園における年度毎のPark-PFIの導入件数を把握しています。中間値は令和5年度末時点の導入件数ですが、令和7年秋に百合が原公園での供用を予定しており、今後件数は上昇する見込みです。	
		公園の防災に資する機能配置調査	防火水槽	131件 (H30)	223件 (R5)	上昇傾向	A	・「消防局が防火水槽を設置している公園数」であり、5年間で92件増加しています。	
			貯水槽	21件 (H30)	21件 (R5)	現況値から変化なし	B	・「水道局が貯水槽を設置している公園数」であり、5年間で施設配置数に増減はありません。	
			雨水貯留量	50,425m3 (H30)	54,546m3 (R5)	上昇傾向	A	・「下水道河川局が公園に雨水貯留機能を設けている雨水貯留量」であり、5年間で4,121m3増加しています。	
			防災資機材保管庫	673件 (H30)	801件 (R5)	上昇傾向	A	・「防災用具の保管を目的に町内会が物置を設置している公園数」であり、5年間で128件増加しています。	
		防災訓練の回数	94件 (H30)	76件 (R6)	減少傾向	C	・「公園で町内会などが実施している防災訓練の回数」であり、H30と比較するとR6では76件に減少しており、主にコロナによる社会活動の停滞が大きく影響していると推察しています。		
緑視率調査		50箇所実施 (R1)	57箇所実施 (R5)	—	—	・調査は、人の視界における草木、すなわち緑の多さを図る割合を算出し、緑視率の変化を把握しています。区や用途地域ごとに整理を行っており、数値については、地点ごとの樹木の成長や管理の状況等によって変化が見られました。 ・目にする緑の存在を整理することは、緑に対する心理的効果の把握につながり、景観や環境への配慮に役立てられています。			
利用者数調査		35公園 (R1)	11公園 (R6)	—	—	・利用者数調査は、再整備実施公園を対象に整備前年と整備翌年の利用者数を把握しており、費用対効果の側面から調査対象の公園を選定し、調査を行いました。			
公園整備に関する満足度調査		76% (H30)	76% (R6)	現況値から変化なし	B	・満足度調査は、再整備等が完了した公園に関する周辺住民へのアンケート結果から、満足度を把握しています。 ・再整備工事に対する市民の評価や利用状況の変化などは、その後の再整備計画や設計、住民説明に活かされています。			
ひと	市民がみどりを守り育て、ふれあうための取組を活発にしています	市民アンケート調査	みどりづくりなどに参加した市民の割合の上昇率	56.1% (H30)	56.4% (R5)	上昇傾向 (上昇率0.5%)	A	・みどりづくりなどに参加した市民の割合の上昇率を掲載しています。少子高齢化や近年の余暇の過ごし方の多様化等からH30年よりも上昇させることとしていましたが、約0.5%の上昇率となっており、目標を上回っています。	
		ボランティア登録者数	公園ボランティア	2,373人 (H30)	2,469人 (R5)	上昇傾向	A	・ボランティア登録者数は、ボランティア登録者調査から登録人数を把握しています。 ・ボランティア登録者数のうち、「公園ボランティア」以外はいずれも減少しており、主にコロナによる社会活動の停滞が大きく影響していると推察しています。なお、「公園ボランティア」においては、上昇傾向となっていますが、これは地域に貢献することを理念とした企業の登録数が増えていることが大きな要因となっていると推察しています。	
			森林ボランティア	1,120人 (H30)	853人 (R5)	減少傾向	C		
			タウンガーデナー	308人 (H30)	272人 (R5)	減少傾向	C		
		指定管理による公園ボランティア	1,326人 (H30)	952人 (R5)	減少傾向	C			
公園利用届分類調査	コミュニティ活動に関する届出件数	1,967件 (H29)	1,637 (R5)	減少傾向	C	【再掲】評価指標欄に記載			

第4次札幌市みどりの基本計画 推進プログラム 進行管理 (みどりの基本計画P112~P116)

取組実績・進捗の区分
→ : 計画当初の工程・内容と変わらない
→ : 計画当初の工程・内容と異なる
 評価の基準
 ○ 工程・取組内容ともに計画どおり進行している (61件 89.7%)
 △ 工程または取組内容に遅れが生じている (7件 10.3%)

分類	方向性	主な施策	推進プログラム	段階	前期(中間評価対象)					取組実績・進捗		評価	後期					今後の予定	
					R2	R3	R4	R5	R6	R6年度末までの取組(予定)	事業の評価 ※事業評価のコメントの下線は評価が△の理由		R7	R8	R9	R10	R11		R11年度末までの取組の見通し ※見通しのコメントの下線は工程・内容が異なる理由
自然	方向性1 持続的な森林 保全・活用	○森林の保全 推進	・公有化した森林の間伐等(真駒内地区、有明地区等)[1]	計画当初	間伐(継続)					白旗山都市環境林以外の都市環境林において、令和元年度から令和6年度までに22haの間伐を実施。	毎年継続して間伐を実施し、森林の公益的機能に加え、木材等生産機能の維持増進を図っている。	○	間伐(継続)					今後も継続して間伐等を実施する。	
			取組実績・進捗	間伐(継続)										間伐(継続)					
		・森林の公有化の実施(南沢地区、澄川地区等)[2]	計画当初	用地取得(継続)					令和2年度から令和6年度までに11haを公有化を実施。(南沢地区 平成26年度から令和6年度まで24.5haを公有化)	毎年継続して公有化を実施しており、森林の保全に寄与している。	○	用地取得(継続)					令和7年度まで南沢地区の公有化1.9haを実施予定。令和8年以降は澄川地区(23ha)の公有化を実施。		
		取組実績・進捗	用地取得(継続)										用地取得(継続)						
		○都市環境林 の利活用の推進	・森林の機能や特性に応じた管理計画の策定[3]	計画当初	調査		検討		策定	<個別の都市環境林> ・令和4年度に澄川都市環境林整備方針を策定。 ・令和6年度に白旗山都市環境林の計画に着手。	個別の都市環境林の計画を策定したほか、札幌市全体の森づくりの方針(「札幌市森づくり基本方針」)を策定(予定)しており、着実に進めることができた。	○	策定						白旗山都市環境林について、「(仮称)白旗山都市環境林利活用計画」を策定する。
			取組実績・進捗	検討	<個別> 澄川着手 <全体> 策定着手	<個別> 澄川策定 <全体> 策定中	<全体> 策定中	<個別> 白旗山着手 <全体> 策定(予定)					<個別> 白旗山策定中	<個別> 白旗山策定					
	・人工林の間伐の実施[4]	計画当初	継続					白旗山都市環境林において、令和元年度から令和6年度までに188haの森林整備(主伐・間伐含む)を実施	着実に森林整備を行うことで、事業量は上昇しており、森林の公益的機能に加え、木材等生産機能の維持増進を図ることができている。	○	継続					今後は、白旗山都市環境林については、主伐の事業量が増える見込みであり、間伐の事業量は減少する見込み			
	取組実績・進捗	継続										間伐継続 主伐造林							
	○多様化する 自然歩道など の利用者への 対応	・市民の森、自然歩道の利用実態調査[5]	計画当初	調査					令和3年度に利用者アンケートを実施。それを踏まえ、「札幌市森づくり基本方針」の中で自然歩道の整備に関する方針を策定予定。	アンケート調査を行って、利用実態を把握できたことにより、多様化する利用形態へ対応するための施策を検討できた。	○	整備					・令和8年度より自然歩道の看板の多言語対応の検討及び自然歩道制度の整理を行う。 ・令和10年度より市民の森の見直し検討開始。		
		取組実績・進捗	アンケート調査			「札幌市森づくり基本方針」の中で検討	アンケート調査実施「札幌市森づくり基本方針」の中で方針策定(予定)					<自然歩道> 多言語対応 制度の整理			<市民の森> 見直し検討				
	方向性2 生物多様性に 配慮したみどりの 保全	○生物多様性 に配慮したみどりの 保全と創出	・特定外来生物の関係法令に基づく適切な処理など、公園緑地などの整備、維持管理における生物多様性の保全に向けた適切な維持管理[6]	計画当初	検討					公園整備において特定外来生物(植物)を発見した場合、関係法令に基づく「土木工事共通仕様書」に従い、適切に対応している。 ・各区の総合維持管理業務および指定管理における特定外来生物の草刈等の取扱いについては関係法令に基づき、適切に対応する。	適切に対応できている。	○	実施					今後も法律に基づき、適切に対応する。	
			取組実績・進捗	実施										実施					
・モニタリングなどによる基礎的な情報収集と共有化[7]		計画当初	検討					市民参加型の「さっぽろ生き物さがしプロジェクト」の実施による情報収集や、市HPで結果を公開し、情報の共有化を図った。	平成27年度から毎年「さっぽろ生き物さがしプロジェクト」を実施しており、その中でも令和5年度は過去最高のデータ数を得られた。	○	実施					調査手法等の変更なども検討しながら「さっぽろ生き物さがしプロジェクト」を継続して実施する。			
取組実績・進捗		実施										実施							
方向性3 みどり資源の 有効活用	○市有施設 における木材 利用の促進	・小学校等での導入[8]	計画当初	小学校等の整備時の導入					森林環境譲与税を活用し、学校や児童会館などに道産木材を活用している。森林譲与税による木材利用を行った公共建築物の数は、令和2年度から令和5年度までに34箇所となっている。令和6年度は7箇所の予定。	定山溪義務教育学校などの小学校のほか、動物愛護管理センターや中央区子育て支援センターなどの公共建築物にも利用しており、着実に道産木材の利用が進んでいる。	○	小学校等の整備時の導入					今後も公共建築物への道産木材の利用を進める。		
		取組実績・進捗	小学校等の整備時の導入										小学校等の整備時の導入						
	○落ち葉の堆肥化	・各土木センターや公園における落ち葉の堆肥化への取組[9]	計画当初	継続					公園・緑地約30か所で落ち葉の堆肥化に取り組んだ。	公園や街路樹から発生する落ち葉を堆肥化し、有効利用することができた。	○	継続					引き続き、公園や街路樹から発生する落ち葉を堆肥化し、有効利用する。		
	取組実績・進捗	継続										継続							
○伐採木・剪定 枝などの有効 活用	・各土木センターや指定管理者の管理する公園における剪定枝の配布[10]	計画当初	継続					公園や街路樹などで発生する伐採木・剪定枝を市民配布した。	伐採木・剪定枝を有効利用し、循環型社会の実現に向けた市民意識の向上や普及啓発を進めることができた。	○	継続					木質バイオマス燃料の材料となる有価物であるため、R7年度以降取組は廃止予定。			
	取組実績・進捗	継続										廃止							
・バイオマス燃料・マルチング材の利用[11]	計画当初	継続					木質バイオマス燃料及びチップ化したマルチング材として有効利用した。	循環型社会の実現に向けた取組みを実施できた。	○	継続					引き続き、木質バイオマス燃料及びチップ化したマルチング材として有効利用する。				
取組実績・進捗	継続										継続								
方向性4 北東部の平地 のみどりの保 全	○農地の保全 と活用	・市民農園や体験農園など、地域の実情にあった農的活用の促進[12]	計画当初	継続					市民農園は、さとらんど市民農園の他、認定市民農園として北東部では5箇所が登録(令和6年6月現在)されており、JAさっぽろ等と連携しながら市民農園についての情報を発信している。	市民農園としての認定を希望する農地所有者に対し、市民農園の登録や、また、市民への情報発信を行うことができた。	○	継続					引き続き、地域ニーズにあわせた遊休農地の利活用方法の検討を継続する。		
		取組実績・進捗	継続										継続						

第4次札幌市みどりの基本計画 推進プログラム 進行管理 (みどりの基本計画P112~P116)

取組実績・進捗の区分 :計画当初の工程・内容と変わらない :計画当初の工程・内容と異なる
 評価の基準 ○工程・取組内容ともに計画どおり進行している (61件 89.7%)
 △工程または取組内容に遅れが生じている (7件 10.3%)

分類	方向性	主な施策	推進プログラム	段階	前期(中間評価対象)					取組実績・進捗		評価	後期					今後の予定
					R2	R3	R4	R5	R6	R6年度末までの取組(予定)	事業の評価 ※事業評価のコメントの下線は評価が△の理由		R7	R8	R9	R10	R11	
都市	方向性8 多様な機能を 発揮する公園 づくり	○厚別山本公園の整備	・大規模公園である厚別山本公園の新規整備工事を実施[23]	計画当初						継続	・平成25年度より造成工事に着手し、令和2年度は遊具広場を造成し、供用を開始している。 ・令和3年度から令和6年度にかけてアクションスポーツ広場を含む中央エントランスエリアの造成を行っており、令和7年度の供用開始を予定している。	基本設計 工事	実施設計 工事	△	実施 設計 工事	工事 (完了)	計画当初は令和6年度の完成を目指していたが、事業開始から10年以上経過し、社会的ニーズの変化に対応した計画の見直し等に時間を要しており、令和8年度以降の完成を予定している。	
				取組実績・進捗	工事	基本設計 工事	実施設計 工事											
		○公園の必要性が高い地域での公園づくり	・公有地や民有地の公園整備の可能性について検討[24]	計画当初						検討	中央区南2条西14丁目の未利用国有地(地方裁判所宿舎等跡地)を取得し、R2年度に南2条みゆき公園(2,809㎡)を整備した。これに合わせ、近隣にあった南4条みゆき公園(南4条西14丁目、333㎡)を廃止した。 R3.3.23に都市計画決定(変更)された卸センター跡地(北6条東3丁目)の地区計画において、地区施設として公園の整備が盛り込まれた。R7.4.1の供用開始に向け、現在、事業者と調整中。			○	調査等 実施	工事 実施	調査等 実施	卸センター跡地(北6条東2丁目)への新規公園整備を進める。 あけぼの公園(南11条西10丁目、543㎡)について、北隣にあったあけぼの保育園跡地(888㎡)を活用し、R9年度に拡張整備工事を行う予定。
				取組実績・進捗	工事 実施	調査等 実施	調査等 実施	工事 実施										
		○市民緑地認定制度の導入	・認定制度の運用[26]	計画当初						運用	民間再開発等に係る水面下での相談事案はあったが、具体化にまでは至っていない。			○		実施		本件については、対象地の整備内容や利用実態(地域ニーズ等)のほか、対象地周辺の公園の配置状況などにより、個別に判断を行っていくことが適切と考えており、相談事案に応じた個別判断を行っていくこととした。
				取組実績・進捗	要綱 作成	運用											検討	
	方向性9 ニーズに応じた 安全・安心な公園の 再整備	○身近な公園の再整備	・造成後30年以上経過した公園について地域ニーズを反映して再整備を実施[27]	計画当初						継続	身近な公園の再整備工事 R2 地域の核となる公園18箇所 機能特化公園12箇所 R3 地域の核となる公園27箇所 機能特化公園13箇所 R4 地域の核となる公園24箇所 機能特化公園8箇所 R5 地域の核となる公園19箇所 機能特化公園13箇所 R6 地域の核となる公園20箇所 機能特化公園8箇所			○		継続		引き続き、約30公園/年ずつ、身近な公園の再整備工事を実施する予定
				取組実績・進捗			実施 設計 工事										実施 設計 工事	
		○大規模公園の再整備	・農試公園の再整備[28]	計画当初						実施設計 工事	・野球場、ちゃぶちゃぶ池、トンカチ広場管理棟、交通コーナーなど主要施設の改修工事を実施した。 ・遊具広場を「誰もが遊べる遊具広場」として再整備するなど、大規模公園としての魅力向上につながる再整備を行った。			○		完了		令和6年度末に再整備工事完了予定。
				取組実績・進捗	工事	実施 設計 工事	工事	工事 (完了)										
		○狭小公園の必要に応じた統廃合の検討	・公園の整備、再整備にあわせて検討[30]	計画当初						随時 検討	中央区南2条西14丁目の未利用国有地(地方裁判所宿舎等跡地)を取得し、R2年度に南2条みゆき公園(2,809㎡)を整備した。これに合わせ、近隣にあった南4条みゆき公園(南4条西14丁目、333㎡)を廃止した。			○		随時 検討		機会を捉えて、狭小公園の統廃合について検討する。
				取組実績・進捗	実施	随時 検討											随時 検討	

第4次札幌市みどりの基本計画 推進プログラム 進行管理 (みどりの基本計画P112~P116)

取組実績・進捗の区分 → :計画当初の工程・内容と変わらない → :計画当初の工程・内容と異なる
 評価の基準 ○工程・取組内容ともに計画どおり進行している (61件 89.7%)
 △工程または取組内容に遅れが生じている (7件 10.3%)

分類	方向性	主な施策	推進プログラム	段階	前期(中間評価対象)					取組実績・進捗		評価	後期					今後の予定
					R2	R3	R4	R5	R6	R6年度末までの取組(予定)	事業の評価 ※事業評価のコメントの下線は評価が△の理由		R7	R8	R9	R10	R11	
都市	方向性10 公園の適正な 管理と活用の 推進	○ICT活用	・HPやSNSを活用した公園のみどころや魅力に関する情報発信の手法の検討と実施 [42]	計画当初	内容検討		実施			指定管理公園でのイベント情報をgoogleカレンダーにまとめた「札幌市公園イベントカレンダー」を令和4年度より札幌市ホームページに掲載。令和5年度は札幌市公式LINEで、令和6年度は札幌市公式X(旧Twitter)も加えて、公園イベントカレンダーと公園検索システムの活用を季節ごとに周知した。また、札幌市内公園に設置しているトイレの位置を示した札幌公園トイレマップをGoogleマイマップで作成し、令和6年度より公開した。	公園イベントカレンダーのアクセス数は令和4年度と令和5年度を比較すると増加しており、札幌市公式SNSを活用した情報発信の効果が見られた。また、札幌公園トイレマップについては、公開3週間で1,200回を超えるアクセスがあり、ニーズに応えられていると考える。	○	継続					・公園検索システム、公園イベントカレンダー、公園パンフレット電子版等の各コンテンツを包括したシステムの構築などを検討する。 また、公園トイレの廃止や建て替え等で状況が変わった際、情報の更新を随時行う
				取組実績・進捗			検討			実施				実施				
		○プレーパークの場の提供 [43]		計画当初	継続					関係部局等による周知などもあり、年々開催数は増加しており、子ども主体の活動が目立ってきている。	適切な対応を行えた。	○	継続					引き続き、開催数が増加していく関係者との連携を図っていく。
				取組実績・進捗	継続					R2:72回 R3:80回 R4:140回 R5:154回			継続					
		○若者の公園利用の促進 [44]		計画当初	計画・整備					施設整備:2公園、仮設整備:1公園 ルール変更による運用:1公園 公園内でのスケートボードの利用需要が見受けられたことから、手稲稲積公園(令和4年度)と豊平川緑地(令和5年度)に仮設の広場を試行的に設置した。手稲稲積公園では、利用状況に特に問題は生じず、近隣住民へのアンケート調査でも大きな反対意見が寄せられなかったことから、令和6年度に常設のスケートボード広場を整備することとしており、また、既存のバスケットコートについても水準を上げて整備することとしている。現在造成中の厚別山本公園においても、スケートボード等のアーバンスポーツが楽しめる広場を令和6年度中に整備することとしている。その他に、山口緑地では、利用ルールの変更により一部滑走エリアを設定した。	若者のニーズに応じた公園整備や運用を行った結果、若者に留まらず、子供や中高年の利用も見受けられ、幅広い世代の利用促進ができた。整備等に当たっては、説明会やアンケート調査を通じて地域住民の意見を反映させたほか、周辺の住環境にも配慮し、利用マナーの啓発も同時に進めながら整備を進めた。	○	計画・整備					公園内でのスケートボード広場の追加整備の必要性については、手稲稲積公園、豊平川緑地、厚別山本公園の供用後の状況等を踏まえながら、検討を行う。
				取組実績・進捗	計画・整備								計画・整備					
○多様な社会貢献の提供や機会の創出 [45]		計画当初	継続					大通公園・創成川公園・円山公園のトイレで使用するトイレ紙の提供者を公募し、寄付いただいている。また、大通公園の「スポンサー花壇」では、花苗調達から植え込みまで企業等に行っていた。	適切な対応を行えたと考える。取り組みの結果公園の利便性向上や課題解決につなげることができた。	○	継続					引き続き適切な公園管理を行っていくため、民間事業者等からの協力を得ながら、多様な社会貢献の機会を図っていく。		
		取組実績・進捗	継続					寄付件数(みどりの推進部所管公園に限る) R2:9件 R3:2件 R4:7件 R5:10件			継続							
○冬期間における公園利用の推進[46]		計画当初	継続					街区公園等の全面再整備時に、地域の方々と意見交換を行い、冬期間における公園利用も進むような再整備案の検討を行った。その結果、スキーやそり遊びが楽しめるようなスロープや築山を設けた事例が生まれた。	再整備により造成したスロープや築山などで、子ども達が雪遊びしている姿を確認したほか、歩くスキーコースも一定の市民利用がなされており、適切に対応できた。	○	継続					引き続き、街区公園等の全面再整備時に、地域の方々と意見交換を行い、冬期間における公園利用も進むような再整備案の検討を行う。 歩くスキーコースについても、利用状況を踏まえながら引き続き運用を行っていく。		
		取組実績・進捗	継続					中島公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、農試公園、前田森林公園、星観緑地では冬期間に無料で利用できる歩くスキーコースを開設した。また、一部の指定管理公園では、スノーシューの貸出しやスノーキャンドルイベントなどを実施し、冬期間における公園利用の推進を図った。			継続							
○公園活性化に関する協議会の設置	・必要に応じて検討 [47]	計画当初	随時検討					指定管理公園では、公園管理者と地域住民などの関係団体で、年に1回程度利活用協議会を開催している。	小規模公園での協議会設置の機会がなかったものの、指定管理公園において、公園の利便性向上に向けた話し合いが行われる機会として、利活用協議会が開催されていることから、一定程度充足していると考えている。	○	随時検討					公園利用に関する要望等があった際など、協議会の新たな設置について随時検討していく。		
		取組実績・進捗	随時検討								随時検討							
○長寿命化計画による計画的な管理運営 [48]		計画当初	継続					令和2年12月に「札幌市公園施設長寿命化計画(第4回)」を策定。計画に基づき重点的・効果的な維持補修や更新に取り組んだ。	策定により計画的な維持補修や更新を行うことができた。橋梁や建築物などの大規模な補修の計画も進められた。	○	継続					引き続き、計画に基づく維持補修や更新を行うとともに、令和11年度には次期長寿命化計画の策定を行う。		
		取組実績・進捗	策定		継続						継続					策定		

第4次札幌市みどりの基本計画 中間評価について

第4次札幌市みどりの基本計画 推進プログラム 進行管理 (みどりの基本計画P112~P116)

取組実績・進捗の区分 :計画当初の工程・内容と変わらない :計画当初の工程・内容と異なる
 評価の基準 ○工程・取組内容ともに計画どおり進行している(61件 89.7%)
 △工程または取組内容に遅れが生じている(7件 10.3%)

分類	方向性	主な施策	推進プログラム	段階	前期(中間評価対象)					取組実績・進捗		評価	後期					今後の予定
					R2	R3	R4	R5	R6	R6年度末までの取組(予定)	事業の評価 ※事業評価のコメントの下線は評価が△の理由		R7	R8	R9	R10	R11	
ひと	方向性13 身近な緑化活動の推進	○緑化活動の推進[59]		計画当初						R2年度～:歩道美化事業、マイタウン・マイフラワープランの実施 R5年度:教育委員会と連携しマイタウン・マイフラワープランについて「地域学校協働活動推進事業」の活動項目に加わった。	町内会などの地域団体の活動により、身近な場所のみどりに触れる機会を創出し、地域に潤いや彩りを与えることができた。	○						引き続き、町内会等の地域団体や小学校による緑化活動への支援に継続して取り組む。
				取組実績・進捗														
		○みどりづくり講習会の実施[60]		計画当初						R2年度～:「さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業」において、「花壇の土づくり」「園芸道具のメンテナンス」「寄せ植えづくり」「宿根草花壇秋のお手入れ」等の講習会を開催した。	令和5年度に行った登録者向けアンケートにおいて、76%の人が「講習会が活動に役立った」と回答した。	○						引き続き、左記事業に取組む適宜ボランティア登録者へ調査を行い、要望の多い内容で講習会を開催する。
				取組実績・進捗														
		○地域緑化支援事業:歩道以外の緑化活動に取り組む市民を対象に花苗及び技術面の支援の実施	・地域緑化支援事業:歩道以外の緑化活動に取り組む市民を対象に花苗及び技術面の支援の実施[61]	計画当初						R2年度～:「さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業」において、緑化技術に関する講習会を開催しているほか、登録団体向けに技術指導講師の派遣を行っている。 R6年度:「さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業」において、登録者が参加店舗で花苗等の割引を受けられる「はなみど割」の取り組みを開始した。	・緑化活動に取り組む市民に緑化技術向上のための支援ができた。 ・緑化活動に取り組む市民が花苗や資材を購入しやすくなる仕組みができた。	○						引き続き、緑化活動に取り組む市民に対する花苗や技術面等の支援を継続する。
				取組実績・進捗														
	方向性14 協働によるみどりづくりの仕組みの充実	○効果的な情報発信[62]		計画当初						本市公式SNS(X、LINE)及び「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」ホームページとSNS(X、LINE、Instagram、Facebook)を活用した情報発信を行った。	市民による活動の様子を多様な媒体を活用し発信できた。	○						引き続き、多様な広報媒体を活用し、多世代に向けた情報発信を継続する。
				取組実績・進捗														
		○イベント開催への支援[63]		計画当初						・著名なガーデナーによる講演会の開催やボランティア同士の親交を促すことを目的とした交流会を開催した。 ・花と緑の街づくりに関連したイベントへの名義後援を行った。	みどりに関わる人の裾野を広げるイベントの企画、運営や、イベント開催の支援ができた。	○						引き続き、交流会や花と緑のまちづくりに関連したイベントへの支援を継続する。
				取組実績・進捗														
		○大学などとの連携[64]		計画当初						R2年度～:全国都市緑化フェアへ出展する花壇デザインを市内大学生との協働により作成した。 R4年度:「さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業」において市内大学生と協働で花と緑のオブジェづくりを行った R4年度～:北海道大学と協働して雨水浸透緑化に適した導入植物についての調査を開始した	・学生の意見を反映させた札幌らしいデザインの出展花壇やオブジェが制作できた。 ・札幌の気候風土や街並みに合い、かつ雨水浸透に適した植物について研究機関と連携できた。	○						引き続き、大学などと連携したみどりづくりの取り組みを継続する。
				取組実績・進捗														
○ボランティア活動の推進	・公園・森林・タウンガーデナーなどみどりに関わるボランティアのあり方を検討し、市民が参加しやすく継続できるボランティア活動推進計画の策定[65]	計画当初						R4年度:みどりのボランティア活動促進計画予備調査業務(市民ボランティア・企業を対象とした実態調査、ボランティア活動支援策の事例収集等) R5年度～:上記調査結果をもとにボランティアの活動を促進するための計画等を策定予定	コロナ禍を契機にボランティア活動の状況が計画策定時の想定と乖離したため、市民や企業を対象とした現状調査を行い、実態を把握できた。	△						策定したボランティアの活動を促進するための計画等に基づき実施する。		
		取組実績・進捗																
		計画当初						R6年度:ボランティア活動を促進するための計画等を策定予定。	コロナ禍を契機にボランティア活動の状況が計画策定時の想定と乖離したため、当初計画より検討開始が遅れている。	△						策定したボランティアの活動を促進するための計画等に基づき実施する。		
○ボランティアリーダーの育成[66]		計画当初						R6年度:ボランティア活動を促進するための計画等を策定予定。	コロナ禍を契機にボランティア活動の状況が計画策定時の想定と乖離したため、当初計画より検討開始が遅れている。	△						策定したボランティアの活動を促進するための計画等に基づき実施する。		
		取組実績・進捗																
○ボランティアネットワーク拠点の構築[67]		計画当初						R6年度:ボランティア活動を促進するための計画等を策定予定。	コロナ禍を契機にボランティア活動の状況が計画策定時の想定と乖離したため、当初計画より検討開始が遅れている。	△						策定したボランティアの活動を促進するための計画等に基づき実施する。		
		取組実績・進捗																
○活動拠点機能の充実	・活動拠点機能の充実[68]	計画当初						R2年度～:公園ボランティア登録制度により、活動に必要な資材を提供している。 R4年度:活動拠点の機能の充実について、大通公園では、ボランティア等の活動場所となる建築物内の一室を、より活動しやすくするために修繕を行った。	・資材を提供することで、ボランティア活動により活動拠点機能の充実に寄与した。 ・個別案件に対し、その都度検討・実施をしており、適切な対応ができていると考える。	○						引き続き、左記事業に取組む要望等があった場合に必要に応じて活動拠点機能の充実を図っていく。		
		取組実績・進捗																

■総括

目標と施策の方向性に関する評価では、「自然」「都市」「ひと」の分類ごとに現状における課題や傾向を把握でき、それらをもとに「計画前期の総括」と「計画後期の展開」をまとめました。また、今後の取組については「国の施策等の社会的動向」をふまえて、「今後注力する取組」を整理しました。

計画前期の総括と計画後期の展開

■自然

計画前期の総括

評価指標

- 都市環境林の手入れでは森林整備の事業量が増加した一方、都市計画区域の緑被率は減少傾向がみられた。

施策の方向性（推進プログラム）

- 概ねすべての項目において計画通りに進行することができた。

計画後期の展開

評価指標

- 引き続き都市環境林の間伐など森林整備に着実に取り組むとともに、緑被率については、現況値以上の数値が確保できるよう、各種みどりの創出に関する取組を進めていく。

施策の方向性（推進プログラム）

- 前期に計画通りに取組を進めることができたことをふまえ、引き続き円滑な事業進捗を図っていく。
- 白旗山都市環境林については、後期は計画策定に取り組むとともに、間伐など森林整備を引き続き進めていく。また、その他の都市環境林においても間伐などに着手する。
- 令和7年度以降の公園や街路樹で発生する伐採木や剪定枝については、バイオマス燃料の材料となる観点から有価物として取り扱っていく。

■都市

計画前期の総括

評価指標

- 都心部の緑化が足りていると感じる市民の割合、公園トイレのバリアフリー化率はいずれも現況値を上回る傾向がみられた。

施策の方向性（推進プログラム）

- 市街地及び都心部のみどりの推進や、街路樹の管理については当初計画に対して一部取組時期の前後はあるものの概ねすべての項目において計画通りに進行することができた。
- グリーンインフラに係る取組の普及啓発については、当初計画していたモデルガーデンの効果検証にとどまらず、民間事業者による整備を支援することができた。
- 厚別山本公園や屯田西公園の整備においては、社会ニーズの変化に対応するための計画見直しなどにより、事業スケジュールが当初計画よりも後送りとなった。
- P-PFIの公募・整備・サービスの開始については、新型コロナウイルスや建築資材高騰などの社会情勢を踏まえ、当初計画よりもスケジュールは後送りしつつ、取組を進めた。

計画後期の展開

評価指標

- 市民アンケートについては、年度によって数値が増減する可能性があるため、R11年に向けて引き続き数値が維持・向上するよう、都心部のみどりの保全創出に取り組んでいく必要がある。
- トイレのバリアフリー化率については、目標値に向けて数値の上昇が鈍化していることから、バリアフリー化の整備や総量の見直しなどについて、一層取り組む必要がある。

施策の方向性（推進プログラム）

- これまで計画的に取り組んできた事業については、今後も継続して取り組むとともに、当初計画よりもスケジュールが遅れている事業についても、計画後期の取組が円滑に進むよう対応する。

■ひと

計画前期の総括

評価指標

- 市民アンケートでは、みどりづくりに関わった方が現況値を上回る結果がみられた一方、新型コロナウイルス感染症も影響し、公園におけるコミュニティ活動は現況値から減少する傾向がみられた。

施策の方向性（推進プログラム）

- 概ね計画通りに進行することができたものの、ボランティア活動を推進する取組については、コロナ禍を踏まえた対応が求められたため、計画策定作業などが当初計画よりも遅れた。

計画後期の展開

評価指標

- 人々の交流活動はコロナ禍から回復基調にあるため、都市公園や森林など様々な場面において市民がみどりにふれあう機会の創出を図っていく。

施策の方向性（推進プログラム）

- これまでの取組を踏まえ、引き続き円滑な事業進捗を図る。
- 自然観察会やさっぽろふさの森づくり事業については、参加人数の傾向や活動の場の変化に対応した取り組みを検討していく。
- ボランティア活動の推進については、令和6年度中にボランティア活動促進計画等を策定することを踏まえ、令和7年度以降は計画等の運用により、ボランティア活動の促進のほか、ボランティアリーダーの育成やボランティア同士の交流を促すネットワーク拠点機能の構築に取り組む。

国の施策等の社会的動向

森林環境譲与税

パリ協定の枠組みの下、温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要となる地方財源を安定的に確保する観点から創設

柔軟な管理運営のあり方

新たな時代の公園として「使われ活きる公園」を目指し、「人がつながりまちを変える公園」の実現に必要な3つの変革と3つの重点戦略、さらに公園DXを含む7つの取組を設定

Park-PFI

都市公園の魅力と利便性の向上を図るために、公園の整備を行う民間の事業者を公募し選定する制度

まちなかウォーカブル

付加価値の創出と地域課題の解決の場となる「都市」のあり方として、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の実現を促進する施策

グリーンインフラ

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組

今後注力する取組

森林整備の推進

多面的機能を発揮する森づくり事業

- CO2の吸収や水源かん養など森林の多面的な機能を発揮するため、手入れ不足の人工林の間伐等の森林整備や、道産木材利用、森林の普及啓発等を推進します。

○主な施策
「森林経営管理制度を活用した私有林整備」、「市有林の森林整備の拡大」、「市民と企業との協働による森づくり」

引き続き、市有林の間伐など森林整備を進めるほか、間伐遅れの私有林について、森林経営管理制度を活用した整備に取り組みます。また、白旗山都市環境林をはじめ、市有林において主伐後の植樹・育樹活動を市民や企業との協働によって進めます。



【私有林整備】



【カラマツ林（白旗山）】

大通公園・中島公園あり方検討

都心部公園機能向上事業

- 市民や来街者が多く訪れる都心の中で、みどり豊かな都心部の公園に求められる施設整備や管理運営、民間資本の活用等を検討し、魅力あふれる公園づくりを進めます。

○主な施策
「大通公園・中島公園あり方検討」

大通公園は、平成の再整備からおよそ30年が経過し、施設の老朽化や多様化する市民ニーズなどに対応するため、公園施設のあり方、新たな役割についての検討を進めています。また、中島公園は、公園周辺において、建物建て替えや今後のまちづくりの検討が進んでおり、これに寄与する公園の方向性を検討しています。



【大通公園】



【中島公園】

雨水浸透緑化施設の整備

都心のみどり推進事業

- みどり溢れ魅力と活力に満ちた都心の形成のため、官民連携による都心のみどりづくりを推進します。

○主な施策
「雨水浸透緑化施設」、「民有地緑化への助成」

札幌市では、平成22年度（2010年）より「雨水浸透緑化（雨水浸透型花壇）」を試行的に都市公園等で導入しており、令和3年度は国土交通省の「先導的グリーンインフラ」の重点支援団体として認定され、雨水浸透型花壇の効果検証等に取り組んだ。引き続き、市民や民間事業者への普及啓発を図るとともに、都市公園の改修や再開発等をはじめとした民間開発などを対象とした官民連携・分野横断による事業推進を目指しています。

雨水浸透緑化（雨水浸透型花壇）の試行的導入



平岡公園：H26,27



豊平公園：H28



円山動物園：H30

令和5年度 札幌市みどりに関する市民アンケート調査の概要

1. アンケート実施の目的

本アンケートは、みどりの基本計画の将来像実現に向けて設定する目標及び進行管理上の指標について、その達成状況の把握やみどりに関する市民意識の把握、各施策の見直し、充実化などを図るための基礎資料とすることを目的とする。

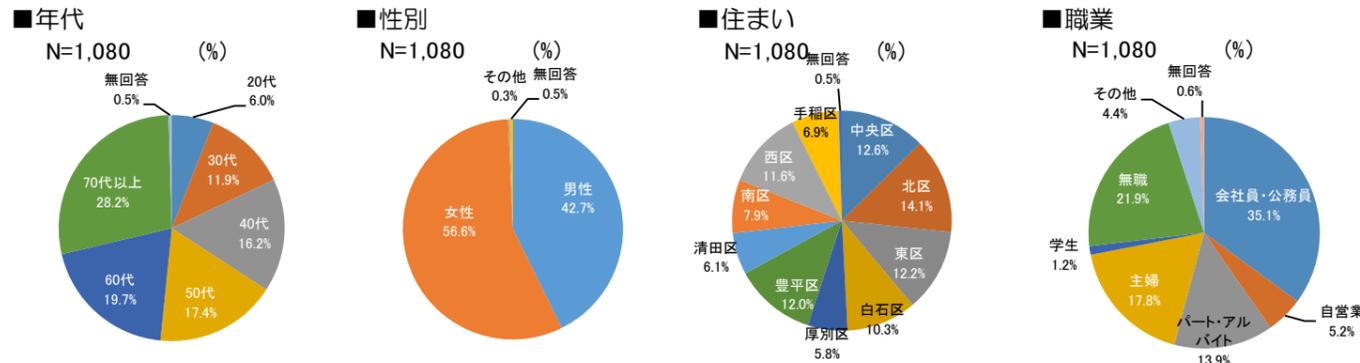
2. 調査概要

- 1) 対象地域：札幌市内全域
- 2) 調査対象者：札幌市民のうち、20歳以上の男女 3,000人
- 3) 抽出方法：区、性別、年代の3要素のバランスをとって無作為抽出
- 4) 実施方法：調査票の郵送及び郵送による回収とWEBによる回収
- 5) 調査期間：2023年11月15日(水)～12月15日(金)
- 6) 回収数：回収数 1,080通、有効回答数 1,080通（郵送回答：868通、WEB回答 212通）

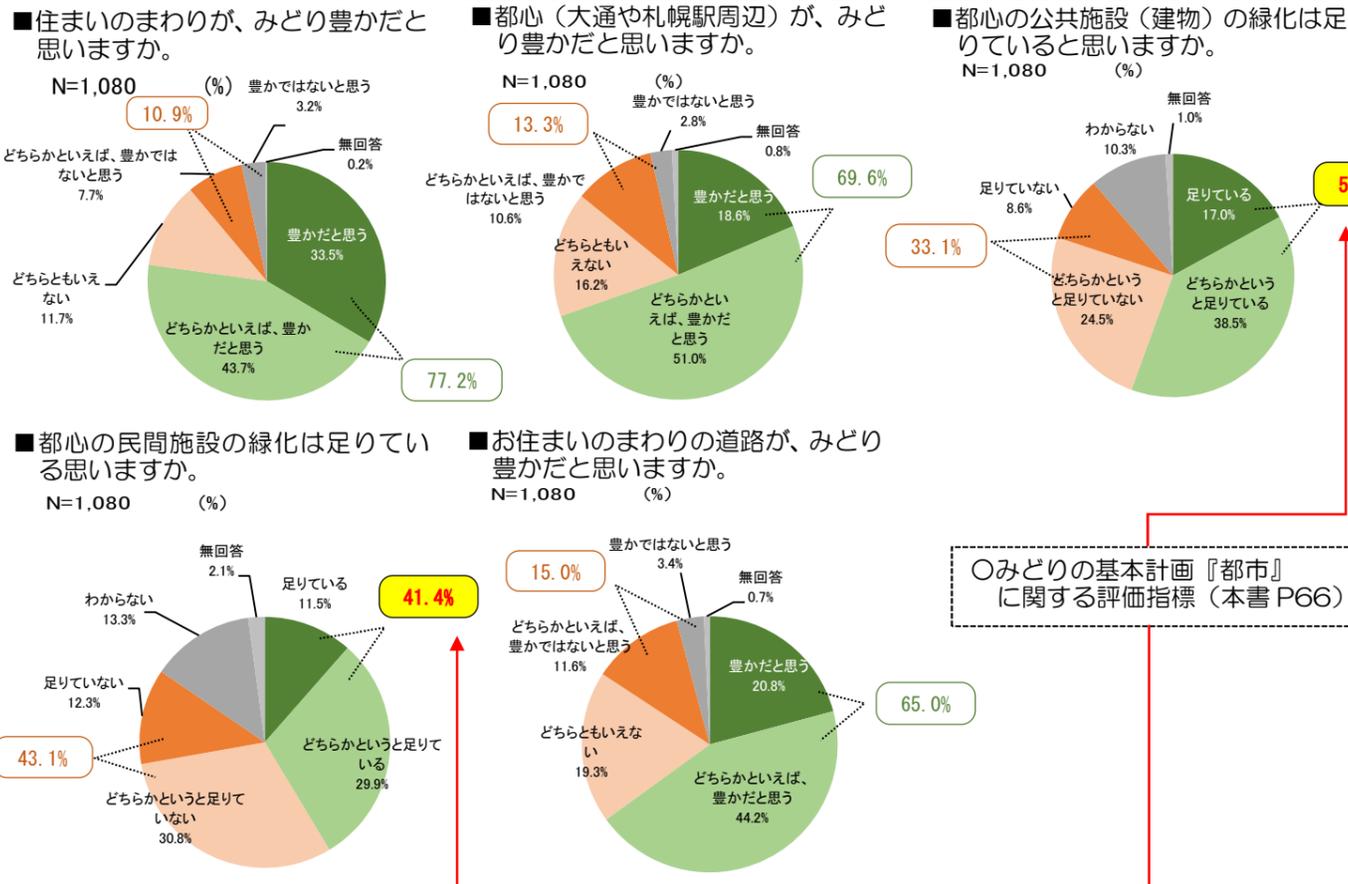
回収率 36.0%、有効回答率 36.0%

%数値は小数点第2位からの四捨五入で実施し、合算の場合に0.1%程度の差異が生ずる場合がある。

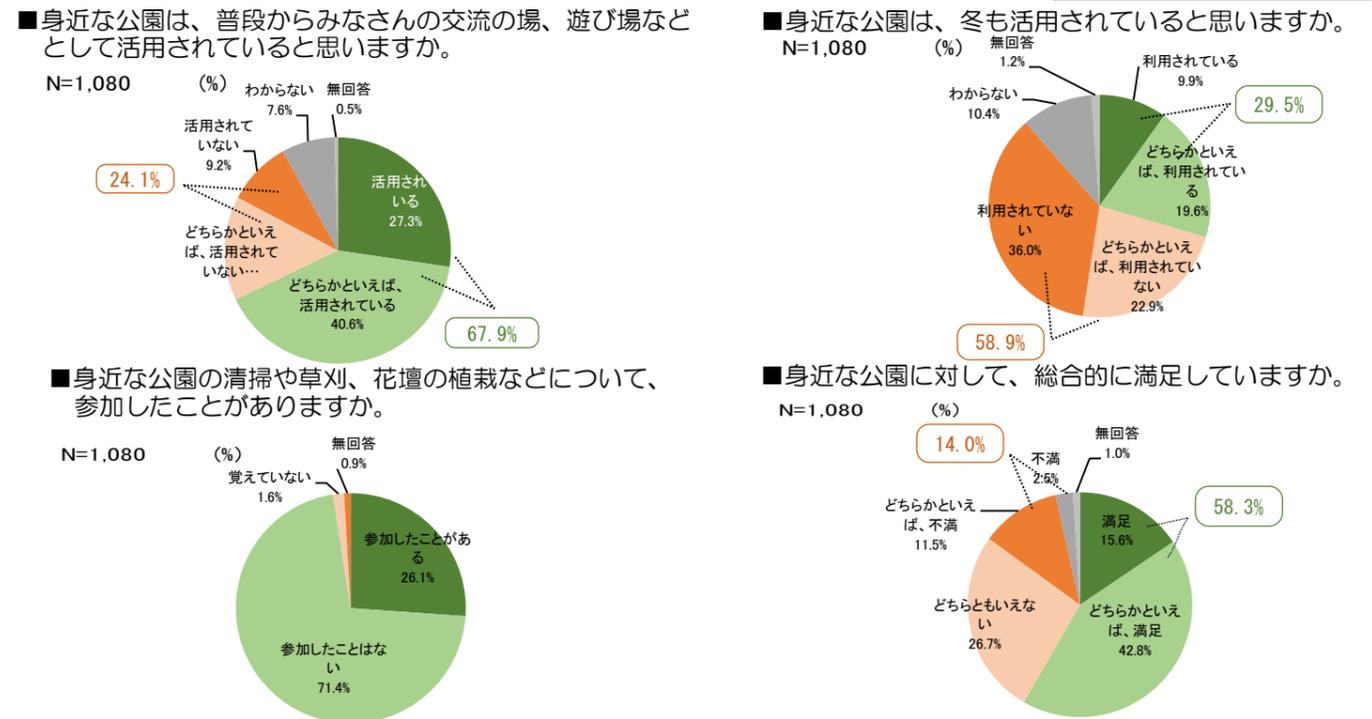
【回答者の属性】



【テーマ1】身近なみどりについて

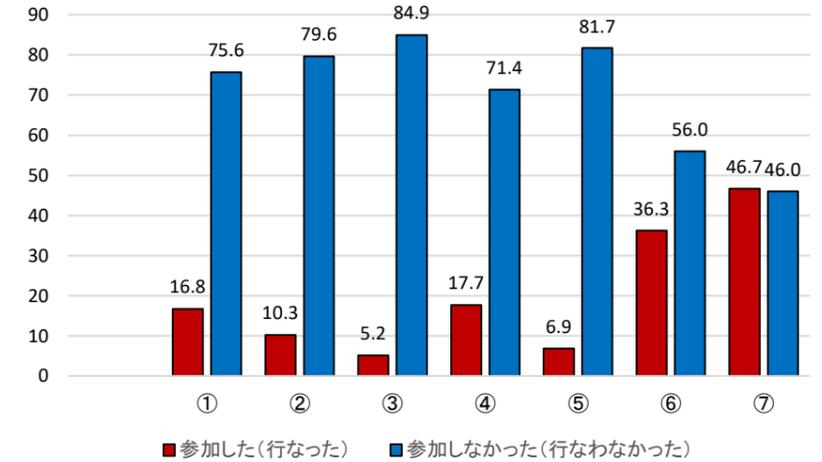


【テーマ2】身近な公園について



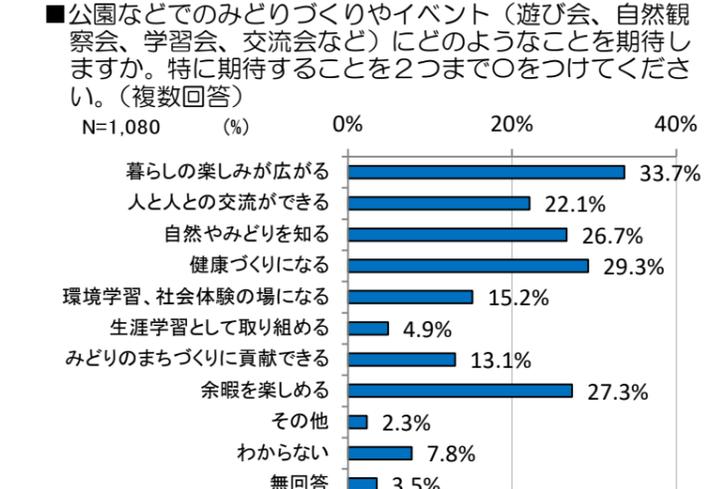
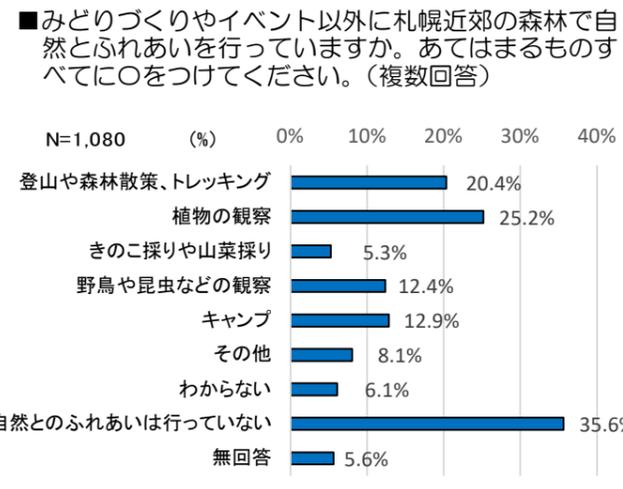
【テーマ3】みどりとふれあいについて

- ①～⑦のみどりづくりやイベントに参加（行なった）しましたか。
- ①知り合いや仲間と一緒に、公園や河川敷、道路などで、花植えや清掃などに参加した
 - ②市内の公園や近郊の森で開催された遊び会、学習会、観察会、交流会などに参加した
 - ③市内近郊の森で、維持管理や植樹などの保全活動に参加した
 - ④森林やみどりを保全するための募金（例：緑の羽など）や寄付を行なった
 - ⑤みどりや花づくり、保全活動などみどりにかわるイベントや取組を行なった（企画運営、手伝いを含む）
 - ⑥個人で、庭や菜園づくりなどを行なった
 - ⑦ベランダや室内での植物の栽培を行なった



○みどりの基本計画『ひと』に関する評価指標（本書P69）
みどりづくりなどに参加した市民の割合（①～⑦のうち④を除いた設問で1つでも参加した（行なった）と回答した割合）

・有効回答者数：1,080人
・④を除く①～⑦の設問で1つでも参加した（行なった）と回答した人数：609人 } **56.4%**



(参考資料)